まちの話題

力強く条幅紙に向かって
新春書き初め大会

新春書き初め大会（市立中央公民館主催）が一月四日、市立中央公民館大ホールで開催されました。

香美市発足後初めてとなる同大会には、市内外の幼児から大人まで九十五人が参加。それぞれ決められた「あさひ」「明るい光」「猪突猛進」などの課題を、力強く条幅紙に筆を走らせていました。

審査の結果、特選二十人、優秀三十三人、入選四十二人が選ばれました。特選は次の方々です。（敬称略）

吉本貴哉（小一）、百田やよい（小二）、野口知沙(小三)、中村りおな(同)、濵崎華子(同)、渡邉真也(小４)、甲藤梨彩（小五)、坂本麻由（同）、吉本公美（同）、井浦麻衣（同）、西内彩乃（同）、渡邉真子（小六）、西村翼（同）、大場真美（中二）、横田晋之（同）、宮﨑郁圭（同）、田所由惟（高一）、大場貴世（高三）、永森理恵子（一般）、前田綾子（一般）

力強く筆を走らせ

手に汗握る真剣勝負
伝統の相撲大会

物部町火鎮祭相撲大会が昨年十一月二十六日、大栃八王子宮の相撲場で開催され、中学生から大人のベテラン力士まで十四チーム、四十二人が参加しました。

同大会は、物部町大栃地区で昭和三十二年に発生した大火災（二十二棟が全半焼の被害）の翌年から消防団が中心になって、大火災を発生させないための〝火鎮〟を祈願する相撲大会として始まったもので、今回で四十九回目となります。

激しいぶつかり合い、技の掛け合いの真剣勝負に観客も力が入り、大きな、熱い声援を送っていました。

【大会結果】

▼団体戦優勝＝大栃中学校、同準優勝＝大栃高校、同三位＝香北分署B

▼個人戦優勝＝橋詰洋和（大栃高校）、同準優勝＝新谷祐治（香北分署B）、同三位＝秋山心平（大栃高校）

団体戦優勝の大栃中

女子駅伝で全国9位
山田高校

昨年十二月二十四日に京都市で開催された『女子第十八回全国高校駅伝』で県勢過去最高タイの九位と大健闘した山田高校女子陸上部が、門脇市長を表敬訪問し、大会の報告をしました。

第一回から連続出場を継続している同校は、県予選から好タイムを記録し、全国大会でも上位に入る快走を見せてくれました。惜しくも入賞（八位）には一秒差で届かなかったものの、アンカーの中谷沙織さん（二年）は、「次はもっと記録を伸ばせるよう頑張りたい」と新たな目標へ抱負を語っていました。

山田高校女子陸上部をかこみ

小学生が朝食の大切さ
調理の楽しさを実感

朝食作り体験で、朝食の大切さと調理の楽しさを知ってもらおうと『朝食バンザイコンテスト』が昨年十二月十七日、市立中央公民館で開催され、市内の小学生と保護者ら十六チーム三十二人が参加しました。

コンテストには、ＪＡ土佐香美から市の特産物〝ゆず・しいたけ・やっこねぎ〟が提供され、参加者は、それらを使って、味付けや栄養を考えたアイデア豊富な朝食づくりに取り組みました。完成した朝食は、皆で試食し合い、調理の楽しさを実感していました。

うまくできているかな？

防災への決意も新たに

平成十九年香美市消防出初式が一月七日、吉野多目的運動広場で開催され、市内の消防団員と香美市消防署員ら総勢二百八十人が参加しました。

式では、人員および服装点検、機械器具点検、分列行進などを行い、参加した団員らは防災への決意を新たにしていました。

この日表彰された方々は、次のとおりです。

（順不同・敬称略）

▼功績章（十年以上勤続し、かつ分団長以上の職に五年以上勤務した者）

杉本英夫（繁藤分団分団長）
西村広幸（明治分団班長）

▼精勤章（品行方正で勤務成績が優秀で他の模範となると認められる者）

石川祐二郎（明治分団班長）
長崎太郎（明治分団団員）
今井嘉男（岩村分団団員）
原博彦（楠目分団部長）
森田康裕（暁霞分団副分団長）
宮地泰範（植分団団員）
池口秀光（永野分団分団長）
公文正志（美良布分団団員）
田中誠二（岡ノ内分団団員）
前田幸彦（永野分団団員）

▼勤続章（十五年以上勤続した者）

小松一誠（永野分団団員）
森安健児（五王堂分団団員）
野口和也（山田分団団員）
田中正幸（神池分団団員）

◀制服を身にまとい気持ちも引き締まり

タイムカプセルに入れた小学生の自分と再会

一月三日、今年成人式を迎える山田小の卒業生が、卒業記念に埋めたタイムカプセルを掘り出しました。

卒業生百六人のうち六十八人と当時の担任の教師らが参加して、同校の校庭から掘り出したカプセルの中には、六年生当時の写真や未来の自分にあてたメッセージが収められ、八年ぶりに対面する自分の文字に少し照れながら、再会したクラスメイトと懐かしく思い出や近況を語り合っていました。

◀懐かしい字に思わず笑みも

今年一年も安全運転を

香美市交通安全母の会主催の「新年ドライバーサービス」が一月九日、香美警察署前で行われ、会員らがドライバーに安全運転を呼びかけました。

同サービスは、ドライバーに今年一年の安全運転を呼びかけようと実施されたもので、会員や香美警察署員のほか市内の各団体から約四十人が参加しました。市の特産品の柚子にちなみ〝ゆずりあいで安全運転〟と書いたカードと柚子などがセットになった啓発用チラシをドライバーに次々と手渡していました。

◆交通安全母の会表彰される

香美市交通安全母の会が、昨年十一月に、高知県警察表彰式で団体表彰を、また、同会の村田珠美会長が、昨年十二月、『第三十三回交通安全母親全国大会』で県代表として個人功労者表彰を受賞しました。

これらの表彰は、世代間交流を取り入れた交通安全教室の実施や熱心な交通安全活動などの功績が認められたもので、村田会長は「母の会を支えてくださる交通安全関係団体の皆さまのおかげであると感謝しています。今後もともに交通安全の輪を広めて行きたいと思います」と受賞のよろこびを語っていました。

香美警察署前にて

▲三瀬顕さん

じんけんについて楽しく熱心に聴講

昨年十二月十七日、『香美市じんけん講演会』が市立中央公民館で開催され、約二百人が聴講に訪れました。

テレビなどでおなじみの弁護士・三瀬顕さんが〝笑顔で語る人権〟と題して講演しました。「私たちの幸福はいろいろな人権が支え合って成り立っている」と、人権について堅苦しくない語り口で話す三瀬さんのトークに、会場からは笑いもおこるなど、参加者は楽しく熱心に聴講していました。

議会議員の紹介

一月十日に当選決定のありました、山岡義一さんを紹介します。

平和・人権・福祉の街をめざして

山岡義一
（土佐山田町西本町・66歳）

このたびの市議選で、私の当選が四カ月遅れて決定されました。長い道のりを実感しております。今後ともよろしくお願いします。

私は、香美市の基本理念であります「輝き・やすらぎ・賑わいをみんなで築くまちづくり」の実現をめざします。

この二十一世紀は、人が人として心豊かに生きるために、平和で人権と福祉が守られる、住みよい社会を子や孫に残していく責任があります。そのための活動を信条としてまいります。

香美市議会議員選挙の異議申出に関する最終報告

昨年九月十日に投・開票が行われた香美市議会議員選挙の選挙結果については、既にご存じのとおり、最終議席は得票数が同数のため、くじにより当選人が決定していましたが、後日、くじにより落選した候補者山岡義一氏から公職選挙法第二百六条に基づく異議の申出が市選管に提出されました。

市選管では、この異議の申出を受理し、全投票の再点検調査を昨年九月三十日に実施した結果、無効投票の中にあった「山崎ぎいち」という二票の有効か無効かの効力の判定が争点となりました。

市選管はこの二票を三人の山崎氏の候補者と山岡氏の混記投票（無効票）と判断し、選挙結果に異動が無いことから昨年十月三日に本件の棄却の決定を行いました。

その後、この市選管の決定に不服があるとして、山岡氏は昨年十月十日に高知県選挙管理委員会に同件に関する審査の申し立てを行いました。

昨年十一月二十九日、県選管は、この二票を誤記による山岡氏の有効投票と判断、得票数で同数であった候補者有元和哉氏より山岡氏が二票上回る結果となるため、市選管の決定を取り消し、有元氏の当選を無効とする裁決を下しました。

公職選挙法では、この県選管の裁決に不服がある者は、裁決から三十日以内に高等裁判所に提訴できることとなっており、この期間内に提訴が無い場合は県選管の裁決が確定します。

当選無効の裁決を受けた有元氏は、これ以上の混乱は市のためにならないとして提訴をしない意向を公表し、本年一月五日にこの件に関する提訴は無く、県選管の裁決は確定しました。

一月十日に当選人を更正決定する選挙会が開催され、山岡氏が当選人となり、今回の当選争訟は終了しました。

また、昨年九月三十日に実施した再点検調査により明らかになった当選人坂本節氏の有効投票の中に同じく当選人大岸眞弓氏の有効票が一票混入していたことが判明していましたので、この件につきましても更正が行われました。

当選挙会で更正のあった主な部分は次のとおりです。

更正の結果（敬称略）

有効投票総数（二票増）
一七、七一五票

当　大岸　眞弓（一票増）
六四六票

当　坂本　節（一票減）
五八三票

当　山岡　義一（二票増）
四五〇票

選挙管理委員会